

沖縄県のマンゴーを加害するシュレイツメハダニ及び マンゴーツメハダニに対する各種薬剤の殺ダニ効果

○守屋伸生¹・喜久村智子²・上里卓己¹・秋田愛子¹

¹沖縄県農業研究センター

²沖縄県北部農林水産振興センター

沖縄県のマンゴー栽培において問題となるハダニ類は、シュレイツメハダニ *Oligonychus biharensis* (以下、シュレイ) マンゴーツメハダニ *O. coffeae* (以下、マンゴーツメ) との2種である(鈴木, 2001)。しかし、これら2種に対する各種農薬の防除効果に関する知見は乏しい。そこで、本研究ではマンゴーや果樹類で農薬登録がある11剤に加え、他の作物でハダニ類に適用のある9剤の計20剤について、これら2種ハダニに対する殺虫効果を実験室条件下で明らかにした。また、室内試験で雌成虫に対して効果の高かった水和硫黄剤とアセキノシル水和剤については、農家圃場での防除効果も調査し、室内試験の結果と比較した。

室内試験では、沖縄本島から採集し累代飼育した両種ハダニ各1個体群を対象に試験した。リーフディスクに接種した雌成虫または産下卵に対して、常用濃度に希釈した各種農薬をハンドスプレーによって散布し、雌成虫は散布3日後、卵は8日後に生死判別を行った。その結果、アセキノシル水和剤(以下、アセキノシル)及びシエノピラフェン水和剤は両種の卵と雌成虫のいずれに対しても効果が高かった。各種農薬の雌成虫に対する効果については2種で概ね同様の傾向を示していたが、卵については傾向が異なっており、シュレイ卵に対する効果がマンゴーツメ卵よりもやや低い傾向が見られた。

水和硫黄剤とアセキノシルの圃場における防除効果は、シュレイが発生している沖縄本島南部の施設マンゴー2圃場において検討した。水和硫黄剤は、シュレイが0.02頭/葉程度と12月下旬の低密度下で散布したところ、その後4月中旬まで発生は確認されず、防除効果が高かった。アセキノシルは、シュレイが0.3~0.5頭/葉となった5月下旬に散布したところ、散布直後は0.05頭/葉未満となり防除効果は高かったが、1か月程度で散布前もしくはそれ以上の密度となった。室内試験では水和硫黄剤は卵への効果は低かったが、ふ化若虫の死亡率は90%以上と高く、圃場においても若虫が葉に付着した薬液に触れて死亡したと考えられた。また、薬液が葉に長期間付着することから、室内試験では卵に対しても効果の高かったアセキノシルよりも防除効果が長期間に渡って持続した可能性がある。

Effect of several pesticides on survival of two spider mite species, *Oligonychus biharensis* and *O. coffeae* (Acari: Tetranychidae), infesting mango in Okinawa.

Nobuo Moriya¹・Tomoko Ganaha-Kikumura²・Takumi Uesato¹, Aiko Akita¹

¹Okinawa Prefectural Agricultural Research Center

²Okinawa Prefectural Northern Agriculture, Forestry and Fisheries Promotion Center